

Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)



日本音楽集団

第127回定期演奏会

1993年1月28日(木)PM6:00開演 ● 津田ホール

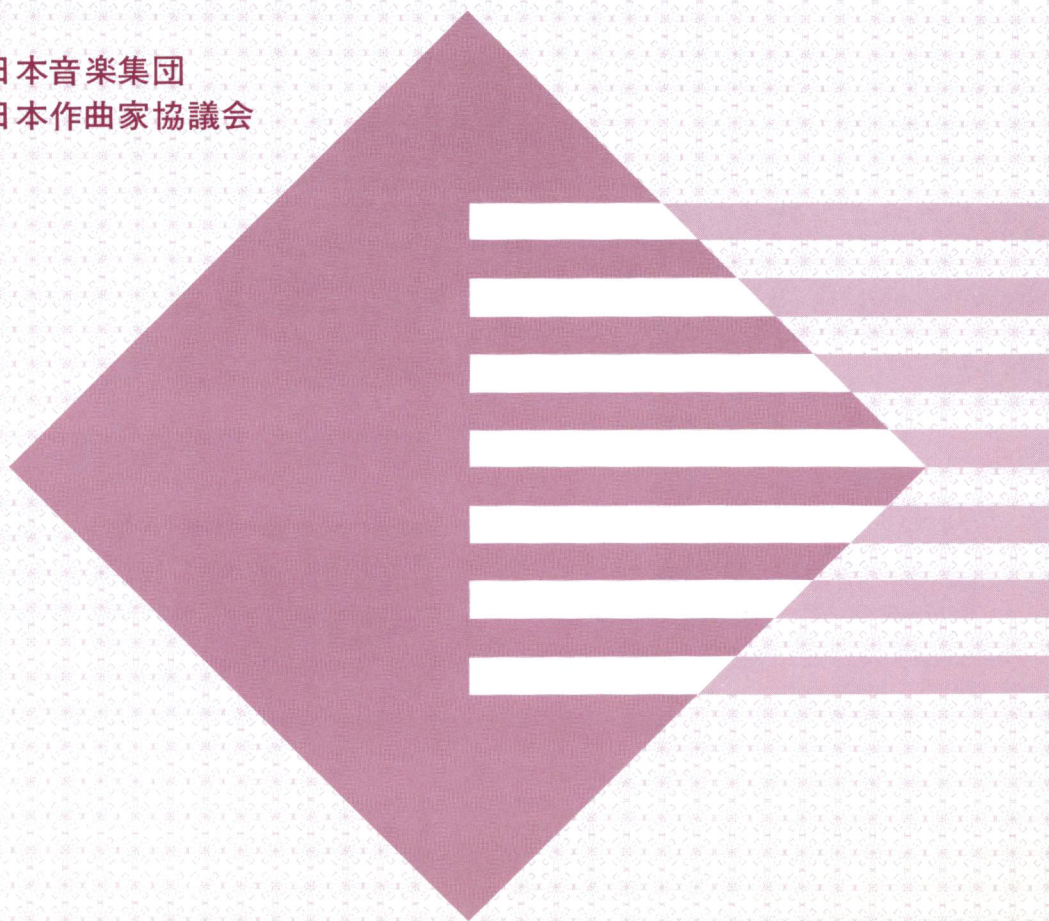
日本作曲家協議会による出品15作が集う

第四回

邦楽器の祭典

主催＝日本音楽集団

(社)日本作曲家協議会



企画・構成＝三木 稔

実行委員＝北爪道夫

長沢勝俊

司 会＝山本直純

4. 岡坂 慶紀

フルートまたは篠笛独奏のための
オルフェウスまたは恋の音取

この作品は本来フルートのために書いたもので、1987年6月増永弘昭氏のリサイタルで初演されました。

篠笛版は1991年3月名古屋で上杉紅童氏が初演しました。「恋の音取(ねとり)」という曲が能の「清経」にあり、笛方の秘曲だそうです。

なお、全音楽譜出版社から楽譜が出版されています。

[篠笛] 竹井誠

1. 小平 光一

比翼の祭儀

創作組太鼓チーム「初石リズム楽団」団長、おだいら太鼓ユニット代表である和太鼓の打ち手としての演奏活動や、太鼓チームの指導育成活動の中から、平成4年の秋に「比翼の祭儀」は作曲されました。比翼とは、囃子や盆太鼓等に良く使われているはね調子のリズムの事で、和太鼓群の比翼の地打ちの刻みに、裏間アクセント打ちを多用した曲打ちを乗せていき、篠笛一本と尺八三本による素朴でおおらかなうたをうたう事を願いました。

[篠笛] 西原貴子

[尺八] 米澤浩・水川寿也・石田忠史

[打楽器] 望月太喜之丞・前田文男・小平光一

2. 田頭 優子

「無」—pour Shakhuchachi seul (初演)

邦楽作品の作曲は、この曲が第1作目となります。音楽集団の方々にレクチャーをして頂いた私は、自分の心奥からわき出てくる音楽が、当初、決めていた楽器ではないことに気づき、はからい心を捨てて、無私となり、自我力を捨てて、大いなるものに帰依する心で作曲すべきだと思ひなりました。

「無」という言葉は、私にたくさんのことを教えてくれたような気がします。

[尺八] 藤崎重康

3. 鈴木 英明

舞—2本の尺八と箏、打楽器のための (初演)

邦楽器の祭典への参加は「律」に続き2作目。曲は音の対峙や融合など多様な組合せによる2本の尺八を軸にしながら、そこに色彩的リズム的变化によって音楽の輪郭を一層鮮明にするために箏と打楽器を加えた。

竹林をわたる風に耳を澄まし黙想すると、何時しか離脱した心が幻想の世界に舞う。そんな自然との交信の中の音による一コマがこの作品である。尚、演奏者、関係者各位には心からの感謝とお礼を申し上げます。

[尺八] 米澤浩・添川浩史

[箏] 宮越圭子

[打楽器] 黒坂昇

5. 松尾 祐孝

美しの都・II—二本の尺八と鼓の為に (初演)

日頃、我々日本人が忘れがちな日本個有の伝統へのなつかしさと、現代的な空間感覚の共存を意図した小品です。三奏者の配置によって、演奏の印象を変えることも可能でしょう。一昨年に発表した「美しの都」～尺八とオルガンの為の～(松本市音楽文化ホール制作のCDに収録予定・近刊)の尺八パートを再考して練り上げた作品ですが、邦楽や現代音楽の普及の一助になれば幸です。尚、現在尺八と管弦楽の為の大作を作曲中です。

[尺八] 三橋貴風・水川寿也

[鼓] 望月太喜之丞

6. 未樹 滯

—協奏的三章—大地の譜より
独奏尺八・独奏三絃と邦楽器群のための (初演)

各々に標題こそついていませんが「I章＝海・II章＝風・III章＝大地」と云う、日本の自然をイメージした、二人の独奏者を有する合奏曲です。ただ、厳格な意味での二重協奏曲ではなく、あくまでも自由な協奏的作品で、全三章が切れ目なく演奏される事を望みますが、今回の様に単独でも上演可能な小品になるべく、各章に短いCodaも同時に創りました。独奏者の先輩方は勿論、古栗の「音楽集団」に感謝しつつ、嬉しくも、又懐き気持ちを告白します。(時間の都合で、中間部のくり返しは省略しています)

【独奏尺八】米澤浩 【独奏三絃】太田幸子

[篠笛] 竹井誠 [尺八] 添川浩史・石田忠史

[三味線] 原田富士江 [琵琶] 田原順子

[二十絃箏] 熊沢栄利子・久東寿子 [十七絃] 外山香

[打楽器] 前田文男・立枝恵子(助演) [指揮] 未樹滯

7. 佐野 芳光

ブルー・モーメント (Blue Moment)
邦楽器のための (初演)

前作「ロックスピリッツ」の延長上の作品で、ブルーモーメント(蒼い時)の私的意味は、ブルースフィーリングが見え隠れしながら曲は進む……というものです。

[尺八] 三橋貴風

[三味線] 工藤哲子

[琵琶] 坂田美子

[二十絃箏] 山田明美

[十七絃] 宮越圭子・城ヶ崎美保

[鼓] 望月太喜之丞

8. 杉浦 正嘉

「雪花の松影」(初演)

深い原始林に包まれた三月始めの十津川溪谷。新宮・橋本の野は春の兆しの見え始めた晴天も、一步溪谷に入るとここはまだ冬。屢、烈しい吹雪の世界である。近くの木々も吹雪に色を消され、ただ黒々と深い影を作り、対岸は降りつる雪の間に高く又低くうっすらと続く原始の松影。総ては厚く烈しい吹雪に封じ込められ静寂そのものの墨絵の世界。見事に美しい。自分も墨絵の中に融ける。この曲はこの風景のイメージよりまとめたものである。

[篠笛] 竹井誠
[三味線] 太田幸子

9. 西田由美子

「竹取物語より」

竹取物語を音楽で表現したいと以前から思っていました。作品は以下のように展開します。①尺八2本でおじさんが竹やぶで女の子を見つける場面に始まり、②箏3面が入り尺八IIをメロディに女の子を家に持ち帰り育てる場面の後③かわいい娘を表わす尺八2本の後、箏だけになり④尺八Iが入り娘の成長する場面の後⑤みかど等に結婚を申し込まれ困る⑥泣いて月に帰る事を説明する⑦月より使者が来て月に帰る⑧皆が娘を思い返す場面で終わる。

[尺八] 藤崎重康・添川浩史
[箏] 熊沢栄利子 [二十絃箏] 山田明美
[十七絃] 宮越圭子
[指揮] 西田由美子

10. 宗像 和

「水」第五(初演)

「水」シリーズは1982年以来、昨夏までに4作ある。1945年8月のあの日、広島、長崎のあの地で、「水・みず……」と訴えたあの人達に飲まれた水、飲まれなかった水、ひとしくあの光景を目撃した「水」たちは、こんにちなお地球上のどこかに漂って、人類世界を見つめている……。その心をうたうことがテーマになっている。

この第五は'92年の夏、書かれた。

[篠笛] 西原貴子 [尺八] 三橋貴風・水川寿也
[二十絃箏] 大畠菜穂子 [十七絃] 外山香
[打楽器] 前田文男
[指揮] 宗像和

11. 村尾 幸映

七零九式—古都・奈良の四季—(夏)(初演)

作品完成年月日(1992年10月27日)各々の後の数から四桁を取り曲名にしました。夏の夜明けを待って小鳥がさえずり、日の出と共に静かに鳴り響く東大寺の鐘、朝露を踏んで寺院に参拝する人達の清々しい姿、墨絵のような奈良公園に朝日が昇り、せみの大合唱の壮観さに立ちすくむ観光客、ジリジリと照りつける真夏の強い太陽の光。夕暮れ時、街では万民豊樂を祈る大小伝統的な夏祭りに人が繰り出す。躍動し鼓舞した陽気な姿である。豊かな自然と歴史的文化遺産を持つ奈良に感銘し作曲いたしました。

[尺八] 米澤浩・添川浩史 [箏] 外山香
[二十絃箏] 大畠菜穂子 [十七絃] 佐藤里美
[打楽器] 前田文男

12. 宮城 純一

Delay Do Re 一尺八・十三絃・十七絃のための

リズムックに三つの楽器が組み合わさる第一部、尺八→十三絃→十七絃の各奏者が自由リズムによる技巧的な節回しを聴かせる第二部、第一部を途中から再現する第三部から成る。

曲名の「Delay Do Re」は、「ド・レの音を遅らす」というような意味。冒頭で十三絃が尺八より少し遅れてド・レの音を奏するのでそう名付けた。'91年12月から'92年2月にかけて作曲。

[尺八] 藤崎重康
[箏] 熊沢栄利子
[十七絃] 山田明美

13. 見目順一郎

明鏡の明と古鏡の古と(初演)

色即是空の論理、あるいは禅でいう差別(しゃべつ)即平等、また道元の言い方でいう現成公案、そうした論理による独自の作曲法を追求してきたが、今回、この作曲法もつフラクタルな性格を作品の形式面に反映させることを試みた。

題名は『正法眼蔵』『古鏡』の巻の「しかあれば、明鏡の明と古鏡の古と、同なりとやせん、異なりとやせん」という部分から引いたもの。

[尺八] 藤崎重康・米澤浩・石田忠史

14. 小橋 稔

ひいふうみ(初演)

ひいふうみ、子供の無心のかぞえうた、遊女の有心のくるわうた、禅師の悟心のてまりうた。つきみてよ ひふみよいむなや ここのとお とおとおさめて またはじまるを。また始まると言えば、萬葉集の最後の歌も大伴家持の新年の歌でした。数えるということは人間だけのはかないくごとなのでしょうか。

ひいふうみ よ(世)はいつむ(常無)なや くるるとし
小橋稔

[篠笛] 西原貴子 [尺八] 竹井誠・水川寿也
[三味線] 坂口美香 [琵琶] 田原順子
[胡弓] 早川智子(助演) [箏] 大畠菜穂子
[二十絃箏] 久東寿子 [十七絃] 大泉一美
[打楽器] 前田文男・立枝恵子 [指揮] 田村拓男

15. 青木 暢男

歌垣(初演)

その昔東国地方で姫歌(かがい)と呼ばれた歌垣は時代の流れの中に消滅してしまいでどの様な歌を唱ったものかどんな舞いだったのか知るよしもありませんが明治になってからも在ったと伝えられています。現代中国の民族にこの風習があるといわれています。男と女の相寄る魂とても申しましようか恋しい人へのやるせない思いや歓び等がとびかい交錯して強烈なエネルギーが渦巻く事を想像して創きました。

[篠笛] 西原貴子 [尺八] 水川寿也
[三味線] 工藤哲子 [琵琶] 丹野さえ [胡弓] 早川智子
[二十絃箏] 熊沢栄利子・大畠菜穂子・山田明美
[十七絃] 宮越圭子 [打楽器] 望月太喜之丞・立枝恵子
[指揮] 青木暢男

日本音楽集団 今後の主な予定

| | | |
|------------------|-----------------------------------|---------------|
| 1993年 2月10日(水) | 関市中学校音楽鑑賞会 | 関市文化会館 |
| 2月25日(木) | 日朝文化交流コンサート | 新宿文化センター |
| 2月26日(金) | 日本音楽集団若葉マークコンサート・その9 | 原宿アコスタディオ |
| 3月22日(月) | 日本音楽集団団員・研修生募集オーディション | 原宿アコスタディオ |
| 3月27日(土) | 横浜市中区親子コンサート | 横浜開港記念会館 |
| 3月28日(日) | 久喜公演 | 久喜総合文化会館 |
| 4月18日(日) | 愛媛三曲協会30周年記念演奏会 | 愛媛県民文化会館サブホール |
| 4月19日(月)~21日(水) | 愛媛県宇和郡学校公演 | |
| 5月12日(水) | 日本音楽集団第128回定期演奏会——春の総合定期・長沢勝俊作品特集 | 津田ホール |
| 5月31日(月)~6月5日(土) | 高松市中学校巡回公演 | |
| 6月5日(土) | 日本音楽集団演奏会(愛知県江南市楽友協会主催) | 江南市民文化会館ホール |
| 6月27日(日) | 大田音楽フェスティバル | 大田区民プラザ |

お知らせ

今回の「邦楽器の祭典」は第5回になります。そこで、例年とは一味も二味も違う大規模なものにしようと、現在企画を進めています。1曲の時間も増やし、コンサートも1月26日を中心に何回か開くなど、聴きごたえのあるものになりそうです。どうぞお楽しみに!

日本音楽集団 〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437